

ガーデンふ頭



「親しまれる港づくり」再開発の 代表格

誰もが楽しめる「人・夢・憩いの親水空間」

ガーデンふ頭は、名古屋港が進める「親しまれる港づくり」の拠点の1つです。元々、開港以来の主要外国貿易施設である旧中央・東・西ふ頭があったガーデンふ頭。港が拡大し物流拠点が南下するなか、地元など各種関係者からの要望を受け「親しまれる港づくり」構想に基づいた再開発が始まりました。

ガーデンふ頭臨港緑園としての整備のほか、名古屋港ポートビル、名古屋海洋博物館、南極観測船ふじなどの施設が次々と開館。

平成3年の「築地ポートタウン計画」（名古屋港管理組合と名古屋市の共同策定、平成19年改訂）では、背後地と一体となった、より魅力ある港まちづくりが計画されました。

以後も名古屋港水族館、JETTY、シートレインランドがオープンし、今では都市部の憩いの場として多くの地域住民に親しまれています。

また、旅客船バースを備え、国内外のクルーズ船や帆船などが接岸。船の一般公開やガーデンふ頭臨港緑園内のつどいの広場などでのイベントも多いこのエリアは、一年中、訪れる人で賑わっています。

①名古屋港水族館 南北2つのテーマ展示

平成4年10月にオープンした南館の展示テーマは「南極への旅」。南極観測船ふじがたどったコースに沿って、「日本の海」「深海ギャラリー」「赤道の海」「オーストラリアの水辺」「南極の海」の5つの水域・地域の生き物たちを紹介しています。

北館は平成13年11月にオープン。「35億年をはるかなる旅～ふたたび海へもどった動物たち～」をテーマに、シャチ、バンドウイルカ、ベルーガなどを展示しています。

別棟の「カメ類繁殖研究施設」では、ウミガメのふ化から育成に至るまでの研究が行われており、内外から注目を集めています。

公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-654-7080



海の日名古屋みなと祭



音楽隊などによるパレードや名古屋市指定無形民俗文化財である筏師一本乗り大会、海上から打ち上げる花火大会などが開催される港の夏の風物詩。



②水族館南側緑地

みなと祭では絶好の花火観覧場所

海に面し、名港トリトンを望む芝生広場や旧食糧庁サイロをシンボリックなモニュメントとしたステージが整備されています。晴天時には心地よい潮風の中、お弁当などを楽しむこともできます。

公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-652-7151



③名古屋港ポートビル

3F・4F 名古屋海洋博物館、7F 展望室

昭和 59 年 7 月オープン。高さ 63m の白い帆船をイメージした建物は、名古屋港のシンボルの一つ。最上階には港を一望できる展望室（地上 53m）、3 階・4 階には港の役割や人々の暮らしの関わりなどを分かりやすく紹介する名古屋海洋博物館があります（平成 27 年 3 月リニューアルオープン）。

公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-652-1111



④南極観測船ふじ

現在は博物館として永久係留

「宗谷」の後、昭和 40 年から 18 年間、第 7～24 次の南極観測事業を支えた砕氷艦。昭和 60 年 8 月より南極の博物館として永久係留されています。

全長 100m。基準排水量 5,250 トン。

公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-652-1111



⑤ポートハウス カモメの形の無料休憩所

羽を広げたカモメをイメージした無料休憩所。ミニコンサート、演劇にも開放。昭和 61 年 4 月オープン。

公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-652-1111



⑥ガーデンふ頭臨港緑園 つどいの広場で各種イベント

緑園中央のつどいの広場は港と地域住民を結ぶ多目的広場。南側には港内の船を眺望できる展望広場、東には港の形に模した噴水広場や世界の主要港の樹木をまとめて植栽した展示林コーナーなどがあります。広場北側には周辺施設利用者用の有料駐車場も整備されています。

公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-652-7151



⑦JETTY

ショッピングとグルメスポット 公益財団法人名古屋みなと振興財団 TEL052-654-9493

⑧シートレインランド

大観覧車が目印の港の遊園地

泉陽興業株式会社名古屋シートレインランド営業所 TEL052-661-1520

エリア基本データ

ふ頭名称 ガーデン 築地 築地東

旧名称 2号地 1号地 5号地

臨港地区

面積 34.7ha 10.2ha 4.0ha

埋立完成時期

ガーデン M38.7.11～S56.1.19

築地 M40.12.28～S41.11.11

築地東 M43.12.31～S39.9.3

バス水深

4.5～10m

公共岸壁（ガーデンふ頭）

係留隻数 63隻

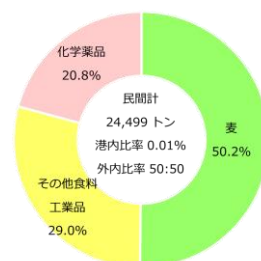
取扱量と品種



民間計（築地・築地東・ガーデンふ頭周辺）

係留隻数 614隻

取扱量と品種



堀川・中川運河



【港内位置図】

堀川 「マイタウン・マイリバー」として再生中

堀川は、ガーデンふ頭から北へ名古屋市市街区を縫いこんで進む 16.2km の庄内川水系の 1 級河川（昭和 44 年指定）です。「川」とはいえ、名古屋城築城時の資材運搬用に開削された運河で、当時の上流端である名古屋城脇の朝日橋まで（新堀川は中区千代田堀止まで）の水域が、名古屋港管理組合の管理する港湾区域です。

かつてその沿岸では、軒を並べた製材業や陶磁器原料、金属、雑貨などの荷役が盛んに行われ、最盛期には名古屋港取扱量の 1/4 を占めるほどでした。しかし、港湾施設の近代化と陸上輸送網の発達により、貨物輸送路としての役割は次第に衰退。一方、市街地排水による環境悪化も危惧されるようになりました。

その後、国の「マイタウン・マイリバー整備事業」による整備河川第 1 号に指定されたことから、治水機能の向上とともに周辺の景観や地域整備と一体となった改修が進められているのをはじめ、官民による様々な事業・イベントが展開。平成 24 年 10 月には堀川まちづくり構想が名古屋市によって策定され、“母なる川・堀川”の再生の歩みが大きな注目を集めています。

中川運河 閘門式の“名古屋版ミニチュアパナマ運河”

中川運河は昭和 5 年、港と名古屋駅貨物停車場（旧笹島駅）を結ぶ運河として誕生。明治末期以降、港勢拡大に伴い水上交通路の強化が急務となっており、待ち望まれた開通でした。運河は閘門式で、水門で仕切った区画（閘室）の水量調節で昇降させた船を通過させる、いわば“名古屋版ミニチュアパナマ運河”です。中川口と松重に閘門が設置され、船の出入管理（通船業務）と、運河水位の管理（水位調整業務）が行われました。

以来、戦時中を除き輸送量を着実に伸ばし、戦後のピーク時（昭和 39 年）には、年間 7 万隻もの船が往来しました。その後、自動車輸送の増加などに伴って通航船舶が年々減少したため、松重閘門は昭和 43 年に閉鎖され、現在、2 対の塔（昭和 61 年名古屋市指定有形文化財）を中心とした松重閘門公園として活用されているほか、親水緑地などの整備を順次行っています。

また、平成 24 年 10 月には、中川運河再生計画を名古屋市と共同で策定し、市街地の貴重な水辺環境を活用し、人々が水辺に近づき、憩うことのできる空間を目指して様々な取り組みを進めています。

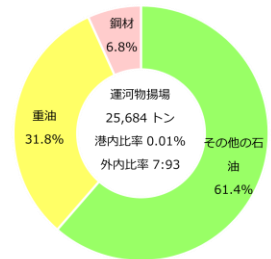


エリア基本データ

ふ頭名称 堀川右岸 中川運河 一州町
臨港地区
面積 71.7ha 49.3ha 19.3ha

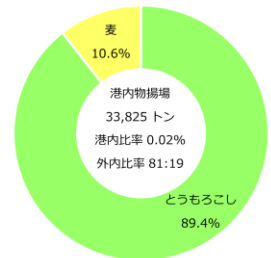
公共その他（運河物揚場）

係留隻数 120隻
取扱量と品種



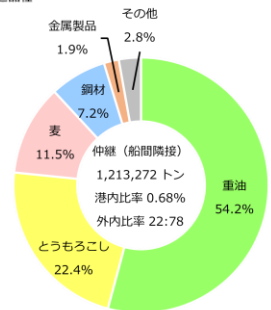
公共その他（港内物揚場）

係留隻数 17隻
取扱量と品種



公共その他（仲継（船間隣接））

取扱量と品種



大手ふ頭



【港内位置図】

“バナナ埠頭”として誕生

大手ふ頭の先に鉤鼻状に突き出た公共ふ頭は、輸入バナナを専門に扱う地区として、昭和43年に供用を開始しました。

当時の愛知、岐阜、三重、静岡、長野5県のバナナ消費量は全国消費量の1割以上。この受入に対応する施設の整備でした。その後、流通経路が変わり、昭和48年からその取扱はなくなりました。

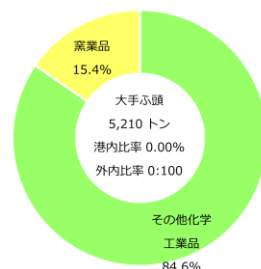
現在、公共ふ頭を含めたその一帯では、西側対岸に立地するセメントなどの内貿工業製品を主に取り扱っています。

エリア基本データ

ふ頭名称	大手
旧名称	3号地 4号地
臨港地区面積	9.3ha 16.5ha
埋立完成時期	
3号地	M36.4.14
4号地	M35.6.29～S42.9.6

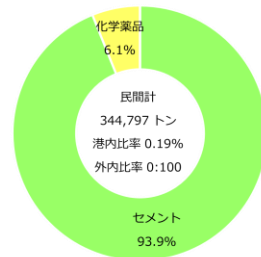
公共岸壁（大手ふ頭）

係留隻数 339隻
取扱量と品種



民間計（大手ふ頭周辺）

係留隻数 159隻
取扱量と品種



名古屋港でも楽しめる海洋スポーツ施設

ボートにヨットにカッター、大手ふ頭周辺には海洋スポーツを気軽に楽しめる3つの施設があります。名古屋港漕艇センター（ボート）、名古屋港少年少女ヨットトレーニングセンター（ヨット）、名古屋港海洋トレーニングセンター（カッター）です。各施設は、初心者からベテランまで誰でも利用でき、体験教室も開催されています。初心者には経験豊富なスタッフによる指導も行われています（事前の申込み等が必要）。

名古屋港漕艇センター

所在地：名古屋市港区中川本町2丁目

連絡先：運営協議会事務局 052-651-0404

名古屋港少年少女ヨットトレーニングセンター

所在地：名古屋市港区築地町2

連絡先：運営協議会事務局 052-653-0677

名古屋港海洋トレーニングセンター

所在地：名古屋市港区一州町8番1

連絡先：運営協議会事務局 0568-67-8006

大江・昭和・船見ふ頭



大江ふ頭

輸送機器産業の成長を支えた

重量物取扱基地

新型旅客機の主翼が「シーアンドエア」で米国へ

名古屋港は、戦後、背後地で急速に発展した鉄道車両、航空機、自動車などの輸送機器産業の製品輸出を支えてきましたが、当初は重量物を専門に扱う岸壁がありませんでした。そこで、輸送機器製品輸出のさらなる増大に対応するため、東部の工業地帯に近く、直背後にも機械工場が密集していたこのふ頭に重量物専用の岸壁が整備されました。

現在、その岸壁に面する三菱重工業(株)大江工場では、米国ボーイング社の旅客機 B787 の主翼部分の製造が行われています。約 30m の主翼の輸送には、中部国際空港まで船で運び、米国の組立工場に専用貨物機で空輸する「シーアンドエア」方式を採用。空港との相乗効果発揮のモデルケースとして注目されています。



主翼の入ったコンテナを運搬する台船

また、大江ふ頭にある 2 バースのうち 1 バースは、震災時の緊急物資輸送基地として利用できるよう延長 185m の耐震強化岸壁となっています。



シーアンドエア概略

なお、当岸壁は建設 40 年以上が経過し、施設の損傷劣化が著しいことから、平成 26 年度から岸壁改良工事に取りかかり、令和 2 年度に完了しました。

エリア基本データ

ふ頭名称	大江
旧名称	6 号地
臨港地区面積	35.9ha
理立完成時期	T9.7.20~S51.4.26
バース水深	9~10m

公共岸壁（大江ふ頭）

係留隻数 597隻

取扱量と品種

産業機械

金属くず 1.1%

1.9%

非鉄金属 4.8%

鉄鋼 37.0%

42,000 トン

港内比率 0.02%

外内比率 45:55

55.2%

その他輸送機械

民間計（大江・昭和・船見ふ頭周辺）

係留隻数 496隻

取扱量と品種

その他化学

工業品

1.0%

1.4%

その他

2.5%

動植物性製

造飼肥料

4.9%

化学薬品

6.6%

鋼材

83.6%

474,600 トン

港内比率 0.27%

外内比率 0:100

アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区

港内をはじめ、中部地域には航空宇宙産業が集積していることから、平成 23 年に愛知と岐阜の区域が国際戦略総合特別区域に指定され、その後、長野、静岡、三重にも区域が拡大されました。今後も、中部地域は、航空宇宙産業のさらなる集積と生産能力の拡充に地域を挙げて取り組み、アメリカのシアトル、フランスのトゥールーズと肩を並べる航空宇宙産業の世界三大拠点の形成に向け、更なる飛躍を目指します。

名古屋港内における主な指定区域

三菱重工業(株)大江工場周辺地区	三菱重工業(株)飛島工場地区
川崎重工業(株)名古屋第一工場地区	川崎重工業(株)名古屋第二工場地区

昭和ふ頭

リサイクル産業の進出で循環型社会の構築にも貢献

古くから重化学工業、自動車製造関連の工場などが立地する昭和ふ頭。近年では、港の広いスペースを活用し、循環型社会に貢献するリサイクル産業の進出も活発です。市内から集められた事業系廃棄物や、家電リサイクル法などの対象製品が、ここで分別された後、リサイクル素材として再び社会へ送りだされています。自動車取引の活況を反映して自動車部品のリサイクル会社も進出しています。

船見ふ頭

全国屈指の陶磁器生産を支える原料取扱基地

名古屋港の背後には、瀬戸、多治見、常滑など、全国屈指の窯業原料生産地が控え、陶磁器生産が盛んです。ここ船見ふ頭には、ガラスの原料となるけい砂や土石などの窯業原料を効率的に取り扱うことができるように窯業原料取扱基地が整備されています。基地内にはその貯蔵倉庫も配置され、全国の陶磁器生産地域への原料の積み出しも活発に行われています。

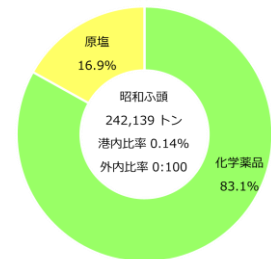


エリア基本データ

ふ頭名称	昭和	船見
旧名称	7号地	8号地
臨港地区面積	50.1ha	67.3ha
埋立完成時期	昭和 T15.7.21~S62.11.7	船見 S3.3.31~S48.8.21
バース水深	昭和 2.4~7.3m	船見 4~9m

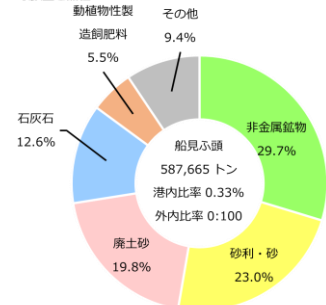
公共岸壁（昭和ふ頭）

係留隻数 488隻
取扱量と品種



公共岸壁（船見ふ頭）

係留隻数 850隻
取扱量と品種



稲永ふ頭



旧稲永ふ頭の展開

戦後名古屋港発展の一大拠点

稲永ふ頭は、戦後名古屋港の急成長を支えた一大貿易拠点です。

旧稲永ふ頭は、我が国港湾施設の荷役能力向上と近代化を目指した昭和 26 年閣議決定の「主要港湾における荷役能力の緊急増加について」に基づき、神戸港の第 7 突堤、横浜港の高島 3 号栈橋などとともに我が国有数の近代的ふ頭として整備され、昭和 35 年に正式に供用開始しました。当時の輸入品の代表であった綿花、羊毛の陸揚げは、ここに集約され、極度の船混み状態と滞貨といった問題解決に大いに貢献しました。

稲永第 2 ふ頭の建設

近代ふ頭の本格化

稲永第 2 ふ頭は、昭和 34 年に建設工事を開始し、昭和 41 年に供用を開始しました。輸出専門ふ頭として京浜港、名古屋港、阪神港に 20 バースを新設する国の構想に組み込まれたもので、北米向け貨物を専門に扱うふ頭として建設されました。背後には、かまぼこ型で内部に柱のない、当時としては画期的な上屋を建設し、フォークリフトなどの効率的使用を可能にしました。

モーダルシフト推進の拠点

現在は RORO 船定期航路としても活躍

昭和 40 年代半ばからのコンテナ輸送への移行に伴い、稲永ふ頭の名古屋港全体に占める取扱比は減少し、その後、雑貨を中心とした内貿バースとして再開発が進められ、平成 10 年に旧稲永ふ頭、稲永第 2 ふ頭間の埋立てが完了し、2 つの名称を「稲永ふ頭」に統一しました。現在は RORO 船の定期航路が利用するなど、モーダルシフト推進の拠点でもあります。

処分場の整備

廃棄物埋立護岸完成

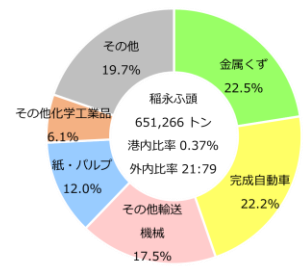
稲永ふ頭の内側の海面に、この一部を囲い込む廃棄物埋立護岸が平成 27 年 3 月に完成しました。この護岸は、平成 24 年度に工事着手し、3 年かけての竣工となりました。南側約 1.6ha は名古屋市の一般廃棄物最終処分場として利用され、15 年の計画で埋め立てます。北側約 3.3ha は、名古屋港内で発生した浚渫土砂を受け入れ、平成 30 年 10 月に埋立て竣工しました。完了後は、緑地、港湾関連用地として利用される予定です。

エリア基本データ

ふ頭名称 稲永
 旧名称 変わらず
 臨港地区面積* 93.3ha
 埋立完成時期* S10.11.9～R13(予定)
 *稲永ふ頭と潮凧ふ頭を合わせて表記
 バース水深 4～10m

公共岸壁（稲永ふ頭）

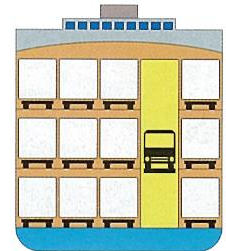
係留隻数 1,540隻
取扱量と品種



RORO 船

船のランプウェイを利用して、貨物をトレーラーやフォークリフトなどで積み降ろしする RORO（ロールオン/ロールオフ）方式の貨物船。荷役の迅速化とともにモーダルシフトの受け皿としても注目されています。

モーダルシフトとは、交通や輸送の手段を変えること。特に、貨物輸送をトラックから船や鉄道利用に変えることを指します。トラック輸送業界における労働力不足に対応すると共に、環境問題の面からもその広がりが期待されています。



潮凧ふ頭



【港内位置図】

戦後経済発展の要・石炭取扱の中核基地

震災時は市街地近くの緊急物資輸送基地として活躍

明治 43 年から昭和 42 年までの間、わずかな時期を除き名古屋港の輸入貨量トップだった石炭。その荷役形態は当初、沖取り作業が中心で、効率性やコスト面で劣っていたことに加え、終戦後は産業復興用の石炭が増産されたことから、石炭取扱の対応策は急を要していました。

そこで、戦時中は海軍の物資集積場として利用されていた 10 号地ふ頭（現潮凧ふ頭）に臨港鉄道を敷設し、大型荷役機械で接岸荷役できる石炭、鉱物などのばら物取扱基地として整備されました。

ふ頭運営についても、公共性を確保しつつ円滑な運営を行うため、昭和 25 年、愛知県、名古屋市、民間の三者均等出資により設立した名古屋埠頭株式会社にその経営が委託されました。

高度経済成長期以降は石油が石炭にとって代わるものの、昭和 40 年代後半のオイルショック後、エネルギーの長期安定確保と多様化が求められ、再び石炭が見直されるようになりました。

そこで、老朽化したふ頭を再開発し、荷役の合理化と効率化を図るとともに、震災時に緊急物資の輸送を行うため、ふ頭北東側の延長 315m の公共岸壁 2 バースを耐震強化岸壁として整備しています。

令和 3 年の潮凧ふ頭の石炭取扱は約 24 万トンで港内比率は約 4%。現在、名古屋港の石炭のほとんどは、東海元浜ふ頭の鉄鋼生産基地で取り扱われています。

戦禍を伝える歴史資源

10 号地灯台

ふ頭南端にたたずむ「10 号地灯台」。昭和 14 年に建設された灯標で、当時はガス灯の明かりで港を見守っていました。第二次大戦の空襲で爆弾の破片により破損しました。

ふ頭内には、現在よりわずかに北側に 2 基の灯標がありましたが、現存するのは 1 基のみです。昭和 62 年、名古屋港の歴史を語る資料として移設、保存されました。

平成 23 年、地域の歴史的、文化的な景観を特徴づけている建造物として、名古屋市から「認定地域建造物資産」に認定されました。

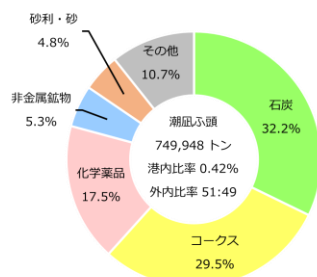


エリア基本データ

ふ頭名称	潮凧
旧名称	10 号地
臨港地区面積*	93.3ha
表記	
埋立完成時期*	S10.11.9～R13(予定)
	*稲永ふ頭と潮凧ふ頭を合わせて表記
バース水深	3.5～10m

公共岸壁（潮凧ふ頭）

係留隻数 927隻
取扱量と品種



空見ふ頭



鉄鋼専用ふ頭として 中部圏の鉄鋼需要急増に対応

沖荷役とはしけ輸送から、近代的接岸荷役へ脱皮

昭和 30 年代に入り、中部圏では産業構造が軽工業から重化学工業中心に転換し、鋼材などの需要が増加しました。名古屋港の取扱も中部圏入荷量の半数を超えましたが、専用のふ頭がなく、多くは本船とはしけとの間で貨物を積み降ろしする沖荷役に頼っていました。

こうした状況を受けて、ここ空見ふ頭に建設されたのが鉄鋼専用ふ頭です。一部は民間企業に分譲し、残りを公共的な荷さばき区域として整備することになりました。その建設と運営に当たっては、資金調達や効率的運営の観点から官民共同設立の名古屋港鉄鋼埠頭株式会社が行うことになりました。昭和 40 年、第 1 期工事が終了し営業が開始されました。



これと並行して建設された民間の鉄鋼専用ふ頭とともに、名古屋港の鉄鋼荷役は、沖荷役とはしけ輸送の時代から近代的ふ頭による接岸荷役に切り換っていきました。

ばら物専用ふ頭として開発された空見ふ頭

鉄鋼のほかにもセメント、石炭などの基地が集中

空見ふ頭は、上記の鉄鋼専用ふ頭を一例に、ばら物専門ふ頭として計画されました。当時、旧 10 号地（潮凧ふ頭）を除いては、ばら物用大型船接岸施設がほとんどなく、非効率な沖荷役が招く滞船の長時間化が深刻な船混み問題の原因となっていたからです。

こうして空見ふ頭には、鉄鋼ふ頭のほか、セメント、石炭などの専門ふ頭、さらには鉄鋼生産の原料となるくず鉄の専用ふ頭などが整備されました。

またふ頭南側は、岸壁隣接地の低温倉庫を集約窓口とするフィリピンなどからの青果品輸入が盛んで、この地域の果物や野菜の主要な流通経路の一つとなっています。

ふ頭内南西部のフェリーターミナルについては別頁に記載。

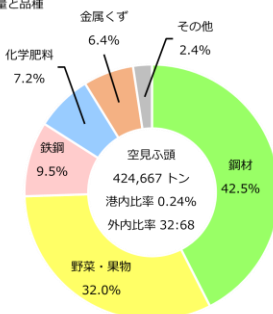
エリア基本データ

ふ頭名称	空見
旧名称	11 号地
臨港地区面積	169.6ha
埋立完成時期	S14.7.8~S51.4.30
バース水深	4.5~10m

公共岸壁（空見ふ頭）

係留隻数 985隻

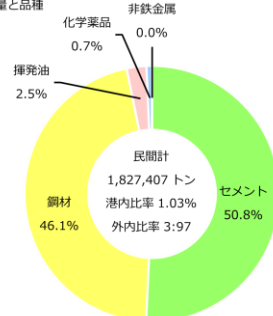
取扱量と品種



民間計（空見・潮凧ふ頭周辺）

係留隻数 1,307隻

取扱量と品種



フェリーターミナル(空見ふ頭)



大量貨物を海陸一貫輸送できる大型カーフェリー

輸送手段の転換“モーダルシフト”の担い手として

高度経済成長に伴って貨物輸送量が増加し、鉄道やトラックなどの内陸輸送は逼迫していたため、トラックごと大量の貨物を輸送できる長距離カーフェリーが脚光を浴びました。

名古屋港においても、昭和 45 年、空見ふ頭南西部にフェリーふ頭を整備することが決定しました。整備は、わが国で初めて地方公社方式で行うことになり、財団法人名古屋フェリー埠頭公社が昭和 46 年に誕生しました。

その後、昭和 47、48 年に相次いで、1 万トン級岸壁 2 バースと旅客ターミナルが完成しました。

財団法人名古屋フェリー埠頭公社は、平成 5 年に外貿コンテナ埠頭業務を追加して財団法人名古屋港埠頭公社に改組し、さらに平成 24 年 12 月からは、同公社のすべての財産及び業務を引き継ぐかたちで名古屋港埠頭株式会社が設立し、業務を行っています。

中部圏と東北、北海道を結ぶ航路が就航

名古屋と仙台と苫小牧を結ぶ太平洋フェリー

現在、太平洋フェリー株式会社の名古屋と仙台と苫小牧を結ぶ航路が 1 日おきに着岸しており、貨物輸送、旅行・レジャーなどに幅広く利用されています。

令和 3 年のフェリー利用実績（商品車を除く）

旅客数	乗用車	バス	トラック	その他車両
32,187 人	11,816 台	98 台	4,097 台	30,000 台

フェリー航路案内

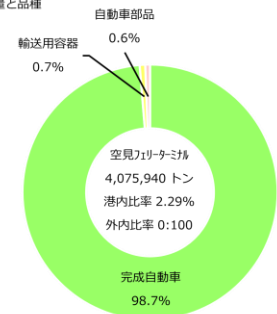
航路 名古屋と仙台と苫小牧
 運航会社 太平洋フェリー株式会社
 運航船舶 いしかり・きそ・きたかみ
 運航日程 2日に1便
 問合せ先 太平洋フェリー株式会社
 名古屋港営業所 052-398-1023

フェリー貨物

専用ターミナル（空見フェリーターミナル）

係留隻数 328隻

取扱量と品種



旅客ターミナル

潮見ふ頭



エネルギーと完成自動車の 移出入基地

年間約 7 千隻が出入りする船の発着場

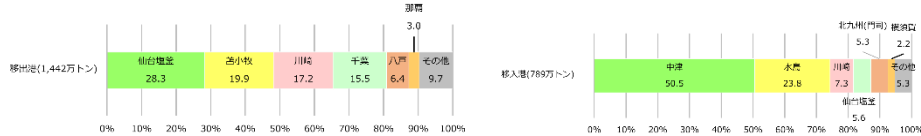
石油需要が増加した大正末期の名古屋港には石油類を収容する施設がなく、他港から鉄道で運び込まれていました。

そこで、昭和 5 年に「危険物取扱区域」として約 30 万㎡の人工島を整備し、戦後の拡張工事を経て、昭和 36 年 5 月、総面積 210 万㎡に及ぶ広大なエネルギー基地が完成しました。以来、名古屋市など周辺都市へのエネルギー供給基地として活躍。

石油、アルコールなどの危険物用の屋外貯蔵タンクが立地しており、貯蔵能力は約 80 万 kl。そのほとんどが小型タンカーで運ばれ、港全体の約 2 割にあたる年間約 7 千隻の船舶がこのふ頭に係留しています。

また、ここは完成自動車の“移出入”基地としても活躍。取扱量は、輸出の一大拠点である対岸の新宝ふ頭と並ぶ規模です。

●完成自動車移出入 2,231万トン (品別取扱内比率 41.3%)



ふ頭内には名古屋市内唯一の火力発電所

ふ頭を取り囲む防潮壁は防油壁としての役割も

名古屋港にある 4 つの火力発電所のうちのひとつが、潮見ふ頭の株式会社 J E R A 新名古屋火力発電所。名古屋市内唯一の火力発電所です。

昭和 34 年に石炭火力発電所として誕生し、昭和 47 年の石油への燃料転換を経て、平成 10 年以降は LNG (液化天然ガス) を燃料とする高効率なコンバインドサイクル発電を行っています。燃料となる LNG は、名古屋港南端の南浜ふ頭から約 17 km のガス導管を通して運ばれています。2 本の白い塔は、高層ビルをイメージした高さ 150m の煙突で、周辺景観との調和を図って設計されました。

コンバインドサイクル発電とは、LNG を再気化した天然ガスを燃やした時の膨張力を利用して発電した後、その時に出る高温の排気ガスの熱を利用して作った蒸気の膨張力を利用して再び発電する発電方式のことで、同じ量の燃料で通常の火力発電よりも多くの電力を作ることが可能です。

また、ふ頭の外周を取り囲む形で、7.7km にわたり高さ 6m~6.5m の防潮壁が昭和 47 年に完成されており、海上へ油が流出するのを防ぐ防油壁の役割も兼ねています。

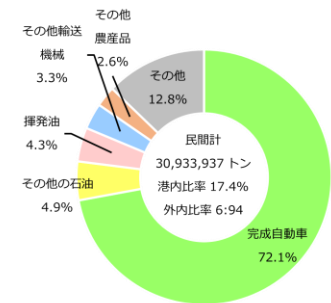
エリア基本データ

ふ頭名称	潮見
旧名称	9 号地
臨港地区面積	217.3ha
埋立完成時期	S5.3.31~S37.12.22
バース水深	4.5~10m

民間計 (潮見ふ頭周辺)

係留隻数 6,326隻

取扱量と品種



名古屋港ワイルドフラワーガーデン “ブルーボネット”

新名古屋火力発電所の敷地内には、平成 14 年、季節ごとの草花が観賞できる自然風庭園、名古屋港ワイルドフラワーガーデン“ブルーボネット”がオープンしました。

なお、昭和 30 年までは、この場所に「千鳥ヶ浜海水浴場」があり、年間 10 万人もの海水浴客で賑わったといえます。売店などの借用利用料や通船料は、築地ふ頭の築地神社創建費用にもあてられました。

ガーデンふ頭と同園、金城ふ頭を結ぶ水上バス「トリトンライン」が運航しています。

TEL 052-613-1187(ブルーボネット)

TEL 052-698-4611(トリトンライン)



金城ふ頭

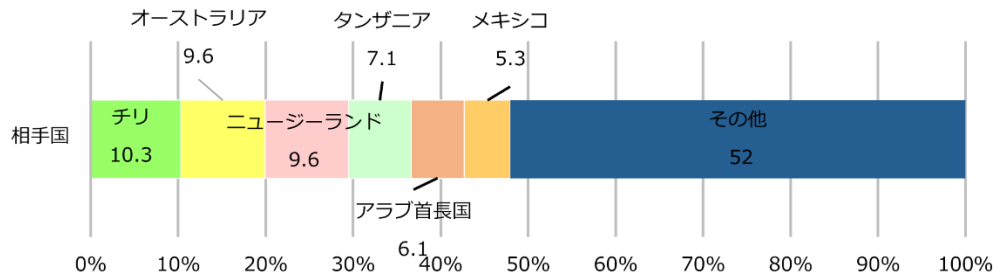


港の中央に位置する 商港機能の中核

名古屋港のコンテナ輸送もここからスタート

港の中央に位置し、商港機能の中核を担う重要なふ頭で、総トン数 1,500 トン以上の船を係留することができる岸壁が 30 あります。名古屋港初のコンテナターミナルが整備されたふ頭でもありますが、平成 21 年からはコンテナ機能を廃止。現在、複数自動車メーカーによる世界各地への完成自動車輸出のほか、産業機械輸出、工業用金属輸入などが盛んに行われています。

●完成自動車輸出 489万トン（品種別取扱港内比率 9.1%）



名古屋港船舶通航情報センター (ナブティック)

NAVITIC = Nagoya Port
Vessel Traffic Information
Center

金城ふ頭の南端、港の中央部に位置し、入出港船舶の離着岸情報などの集中管理をする通航管理と、“なごやポートラジオ”を通じて船舶と直接通信し、入出港に際しての必要情報を提供する通航通信を行っています。

また同じビル内には第四管区海上保安本部の名古屋港海上交通センターがあり、船舶の管制業務と安全通航のための情報提供を行っています。塔屋最上部には「管制信号板」及び「情報信号板」が設置され、アルファベットなどの電光表示により船舶への航行管制と情報提供が行われています。



交通アクセスに優れたふ頭

東西の伊勢湾岸自動車道に、南北のおおなみ線

ふ頭内には伊勢湾岸自動車道の名港中央インターがあり、道路網が発達しています。また、名古屋西南部初の旅客鉄道として平成 16 年 10 月におおなみ線が開業。名古屋駅と金城ふ頭との間の 15.2km を約 24 分で結びます。名古屋市内では唯一、海と港が眺められる鉄道です。稲永駅周辺には大型商業施設が建設されるなど沿線の再開発も進んでいます。

名古屋臨海高速鉄道株式会社 TEL 052-383-0960



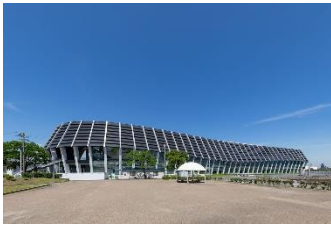
開発進む親しまれる交流拠点

名古屋市国際展示場 (ポートメッセなごや)

「ポートメッセなごや」として親しまれる全国有数の総合コンベンション施設です。

総展示面積約 4 万㎡の展示施設やホール、会議室、飲食施設などの各施設を備え、見本市・展示会、イベント・コンサートなど多様な用途に対応しています。令和 4 年 10 月に第 1 展示館とコンベンションセンターがリニューアルオープンしました。

TEL 052-398-1771



鉄道系博物館 (リニア・鉄道館)

在来線から超電導リニアまで 39 両の実物車両を展示。シミュレータや鉄道ジオラマなどもあり、鉄道のしくみや歴史などを楽しく学ぶことができます。



平成 23 年 3 月開館。

TEL 052-389-6100

レゴランド®・ジャパン・リゾート

レゴランド®・ジャパンは、平成 29 年に世界で 8 番目のレゴランドとして名古屋市に誕生した、屋外型のキッズテーマパークです。

平成 30 年に新たに加わった、「レゴランド®・ジャパン・ホテル」と「シーライフ名古屋」と共に、一大ファミリーリゾート「レゴランド・ジャパン・リゾート」へと変貌をとげました。

TEL 0570-05-8605



レゴランド®・ジャパン・リゾート
©2023 The LEGO Group.

メイカーズピア

「モノ・コトづくり」をテーマにした、ダイニング、ショッピング、エンターテインメントを三つの柱とする複合型商業施設です。

平成29年3月オープン。

TEL 052-304-8722



フットサルアリーナ (武田テバオーシャンアリーナ)

Fリーグ名古屋オーシャンズも試合を行うスタジアム。フットサルだけでなく、運動会やスポーツ競技大会など色々なイベントが開催されています。

TEL 052-602-7001



金城ふ頭中央緑地

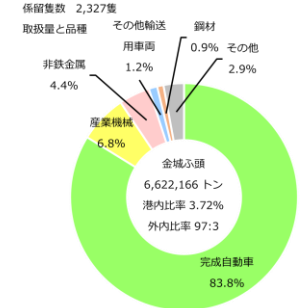
地域住民や港湾関係者などの憩いの場として整備され、平成 24 年には名古屋市のモノづくり文化交流拠点構想と連携した事業として、港の眺望を楽しむことができる緑地にリニューアルしました。



エリア基本データ

ふ頭名称 金城
旧名称 13号地
臨港地区面積 188.4ha
埋立完成時期
S46.2.18~R6(予定)
バース水深 5.5~12m

公共岸壁 (金城ふ頭)

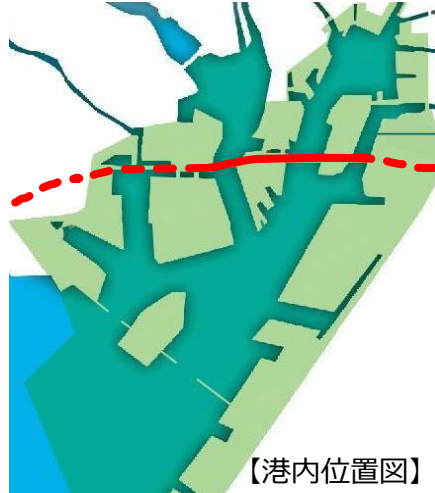


大型クルーズ船の寄港

平成 11 年 3 月、大型クルーズ船「クイーン・エリザベス 2」が名古屋港に初めて寄港した際、名港中央大橋を通過することができないため金城ふ頭に着岸しました。平成 30 年 4 月には総トン数 168,666 トン、全長 348 メートルの「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」が、平成 31 年 3 月には総トン数 115,906 トン、全長 290 メートルの「ダイヤモンド・プリンセス」が着岸するなど、大型化の進むクルーズ船の受入も暫定的に行っています。



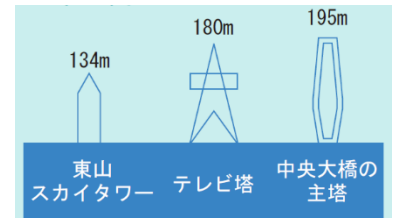
名港トリトン・伊勢湾岸自動車道



【港内位置図】

三つの橋の大きさ

名称	橋長	塔高
西大橋	758m	127m
中央大橋	1,170m	195m
東大橋	700m	130m



名港トリトン

入港船を迎える赤白青の港のシンボル

名港トリトンは、港中央を横切る伊勢湾岸自動車道に架かる 3 つの橋の愛称です。西から名港西大橋、名港中央大橋、名港東大橋とつながっています。阪神大震災級の大きな揺れや、伊勢湾台風級の強い風にも耐えられる高い安全性も備えています。

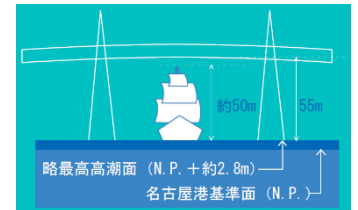
周囲の景観に配慮した斜張橋で、赤、白、青の印象的なデザインから、港のシンボルの一つとなっています。夜間には季節ごとに異なる色でライトアップも行われています。（中央大橋・東大橋は NEXCO 中日本の橋梁耐震補強工事の影響で、令和 3 年 4 月 5 日から令和 6 年 3 月（予定）までライトアップ休止）

名前の由来

当時の日本道路公団が一般公募により決定。トリトンの“トリ”は、3 を意味する接頭語です。また、ギリシャ神話の海神ポセイドンの息子もトリトンという名前。その姿は半身半魚で、嵐で難破した船に飛んできて、三叉槍を振りかざし、波を鎮めた海の王子と言われています。

高さは大型帆船の通航に配慮

毎年名古屋港に寄港して人々を魅了する世界最大級の帆船「日本丸」と「海王丸」のメインマストの高さは約 50m。入出港時に通過する中央大橋は、その通航に配慮して桁下から水面まで 55m の空間を確保しています。



伊勢湾岸自動車道

東西の幹線高速道路と直結し利便性が飛躍的に向上

名港トリトンが結ぶ伊勢湾岸自動車道は、四日市ジャンクション（以下 JCT）と豊田東 JCT との間約 60 km を結ぶ自動車専用道路です。名古屋港内には、東海インターチェンジ（以下 IC）、名港潮見 IC、名港中央 IC、飛島 IC が配置されています。新名神高速道路の一部となるこの道路は、東名阪自動車道、東名高速道路、東海環状自

名古屋港内における伊勢湾岸自動車道の沿革

昭和 60 年 (1985)	3 月	西大橋（金城ふ頭と飛島ふ頭との間）が暫定 2 車線で開通
平成 10 年 (1998)	3 月	飛島 IC と名古屋南 IC との間が開通。名港トリトン開通
平成 12 年 (2000)	3 月	飛島 IC と湾岸弥富 IC との間が開通。新宝ふ頭と西部地区とが結ばれる
平成 15 年 (2003)	3 月	四日市 JCT とみえ川越 IC との間が開通。東名阪自動車道に直結
平成 16 年 (2004)	12 月	豊田南 IC と豊田 JCT との間が開通。東名高速道路に直結
平成 17 年 (2005)	3 月	豊田 JCT と豊田東 JCT との間が開通。東海環状自動車道に直結
平成 23 年 (2011)	3 月	名古屋第二環状自動車道（名二環）に直結
平成 23 年 (2011)	11 月	名古屋高速 4 号東海線に直結
平成 28 年 (2016)	2 月	豊田東 JCT と浜松いなさ JCT との間が開通。新東名高速道路に直結
	8 月	四日市 JCT で新名神高速道路と接続
令和 3 年 (2021)	5 月	飛島 JCT で名古屋第二環状自動車道（名二環）と接続

動車道、名古屋第二環状自動車道、名古屋高速 4 号東海線、新東名高速道路と結ばれています。これらの開通により東西物流のアクセスが飛躍的に向上しました。

木場金岡ふ頭



軽工業を対象に整備された 西部臨海地区

鋼材関連企業が進出

工業港としての機能向上を目指し、昭和 39 年の港湾計画でこのふ頭を含む広大な西部臨海工業地帯の造成が計画され、翌年から土地造成が開始されました。

造成の進展とともに、各自の専用岸壁や水面の利用に適した企業が進出し、現在は木材関連の軽工業のほか、鋼材流通加工、小型造船業などの企業が立地しています。とりわけ“鋼材流通基地”と呼べるほど鋼材関連企業は多く、背後地の鋼材需要に応じた供給ができるような保管・加工サービスが行われています。

航空宇宙産業進出で国産ロケットも製造

ロケットは専用コンテナで慎重に積み出し

また、ここには昭和 54 年から航空宇宙産業が進出し、航空機の機体の部分組立及び宇宙機器の組立作業が行われています。

巨大化するロケットや航空機の大型部品などは、完成後の陸上輸送が難しく、隣接する港から直接船積みできることは、港に立地する大きなメリットでもあります。ロケットの積み出しには、専用のコンテナが使用され、工場脇の専用岸壁から鹿児島県種子島のロケット発射場に運ばれています。

エリア基本データ

ふ頭名称	木場金岡
旧名称	西 2 区
臨港地区面積	279.3ha
埋立完成時期	S45.10.27~S48.3.1
バース水深	6.0m

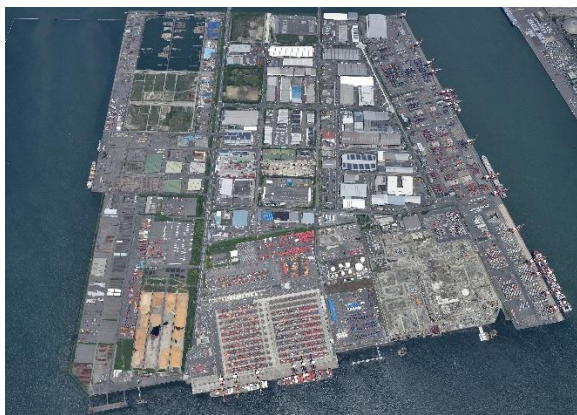
民間計（木場金岡ふ頭周辺）

係留隻数 1,240隻

取扱量と品種



飛島ふ頭



【港内位置図】

港内最大のコンテナ物流拠点

東と南に配された CT が基幹航路を支える

飛島ふ頭は、港内最大のコンテナ物流拠点です。東側と南側にコンテナターミナル（以下、CT）を擁し、北米、欧州などの基幹航路を中心に世界のコンテナ航路と結ばれています。

東側には 3 つの CT（北から飛島ふ頭北 CT、NCB CT、飛島ふ頭南 CT）が連なり、岸壁の総延長は 2,220m に及びます。

ふ頭中央部には流通機能基地が機能的に集積し、コンテナ貨物の迅速な処理を支えています。

一方、南側は IT を活用した高規格 CT の形成が図られています。平成 17 年 12 月に飛島ふ頭南側 CT 第 1 バース（TS2）、平成 20 年 12 月に第 2 バース（TS1）が供用を開始しました。（→飛島ふ頭南側コンテナターミナル）

また、これらの CT のゲート業務の一部を担うため、平成 23 年には国内初となる「集中管理ゲート」が運用を開始しました。

名古屋港の先進の IT システム

NUTS (Nagoya United Terminal System)

名古屋港統一ターミナルシステム

名古屋港内全てのコンテナターミナルを一元管理する、国内でも先進のコンピューターシステムです。本港の港湾運送事業者が開発・運営し、これにより荷役作業の効率化や処理時間の短縮化が図られ、物流コスト削減に貢献しています。



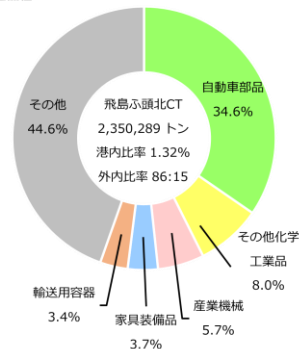
エリア基本データ

ふ頭名称	飛島
旧名称	西 4 区
臨港地区面積	514.1ha
埋立完成時期	S45.8.19~H20.9.19
バース水深	10~16m

専用ターミナル（飛島ふ頭北CT）

係留隻数 576隻

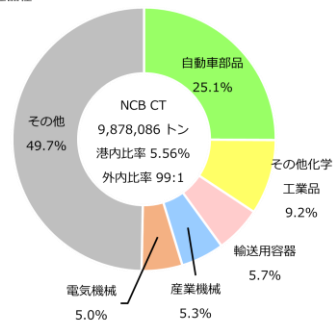
取扱量と品種



専用ターミナル（NCB CT）

係留隻数 655隻

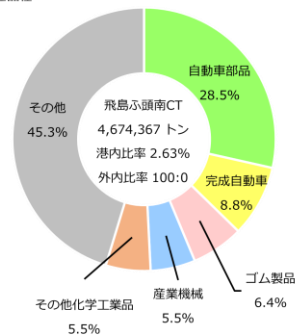
取扱量と品種



専用ターミナル（飛島ふ頭南CT）

係留隻数 277隻

取扱量と品種



飛島ふ頭東側コンテナターミナル施設概要

	北 CT (W90,W91,W92)	N C BCT (R1,R2,R3)	南 CT (W93,W94)
供用開始時期	昭和 59 年 11 月	R1：令和 4 年 10 月 R2：昭和 47 年 11 月 R3：昭和 58 年 4 月	W93：平成 9 年 4 月 W94：平成 3 年 4 月
総面積	171,105 m ²	288,379 m ²	227,772 m ²
岸壁			
形式	横棧橋	横棧橋	横棧橋
延長	620m	900m	700m
水深	10~12m	12m~15m	15m
エプロン幅	23m	40m	40m
コンテナヤード			
蔵置能力	2,862GS	5,125GS	4,376GS
ガントリークレーン			
基数	3 基	6 基	6 基
到達距離	13 列・5 段×2 13 列・3 段×1	17 列・5 段×2 16 列・4 段×2 22 列・8 段×2	20 列・8 段×4 17 列・6 段×2
最大巻揚荷重	49.1t×2 48.0t×1	55.1t×4 83t×2	83.0t×4 56.3t×2
アウトリーチ	37.0m×2 36.0 m×1	48.0 m×2 44.0 m×2 61.0m×2	56.0m×4 48.5m×2
形式	ロープトローリ式橋型	ロープトローリ式橋型×4 セミロープトローリ式橋型ツイ ンスプレッダー×2	ロープトローリ式橋型×2 セミロープトローリ式橋型ツイ ンスプレッダー×4

※現在 N C BCT R2 岸壁は、水深 15m への増深、耐震強化工事中。

火力発電所リフレッシュ

世界最高水準の最新設備に

飛島ふ頭に立地する、株式会社 J E R A の西名古屋火力発電所は、従来の石油燃料から、高効率かつ CO2 発生量の少ない LNG（液化天然ガス）へと燃料を切り替えるためのリフレッシュ工事を平成 26 年 3 月から開始し、平成 29 年 9 月に 1 号機が、平成 30 年 3 月に 2 号機が稼働しました。発電所として世界最高水準の熱効率を誇ります。

● 港内の火力発電所

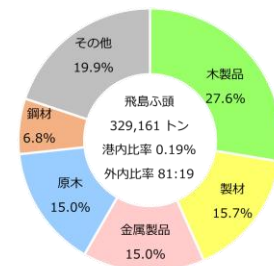
名称	ふ頭	出力 (千kW)	運転開始	燃料	煙突高さ (m)
新名古屋火力発電所	潮見	3,058	H10.8	LNG	150・150
知多火力発電所	北浜	3,966	S41.2	LNG	220・200
知多第二火力発電所	北浜	1,708	S58.9	LNG	200
西名古屋火力発電所	飛島	2,376	H30.3	LNG	80

エリア基本データ

ふ頭名称 飛島
旧名称 西 4 区
臨港地区面積 514.1ha
埋立完成時期
S45.8.19~H20.9.19
バース水深 10~16m

公共岸壁（飛島ふ頭）

係留隻数 248隻
取扱量と品種



民間計（飛島ふ頭周辺）

係留隻数 89隻
取扱量と品種



飛島ふ頭南側コンテナターミナル



【港内位置図】

ITを活用した高規格CT

実験的・画期的施策でこれからの名古屋港を先導

年々加速するコンテナ船の大型化とコンテナ貨物の増加に対処するため、高規格で高効率化を目指したコンテナターミナル（以下、CT）として整備されたのが飛島ふ頭南側CTです。

船社・港運・荷主系物流会社からなる10社が共同で民間ターミナル運営会社を設立し、CTの運営はもちろん、ガントリークレーンなど一部の施設整備も自ら行っています。

このCTは、水深16m、総延長750mの耐震強化岸壁、22列対応の超大型ガントリークレーン、奥行500mの広大なコンテナヤードを備え、ITを活用して効率的な運営が行われています。

その1つが、世界初となる遠隔自働RTG（ラバータイヤ式ガントリークレーン）の導入です。

遠隔操作室のオペレーターが、モニター映像を確認しながら無人の自働RTGを操作することによって、飛躍的に作業効率が向上しました。

また、ガントリークレーンと荷さばき地との間のコンテナ輸送には、自働制御で往復する自働搬送台車（AGV）を導入し、ガントリークレーンやRTGとの連携によりさらなる荷役作業の効率化が図られています。

CT 運営者

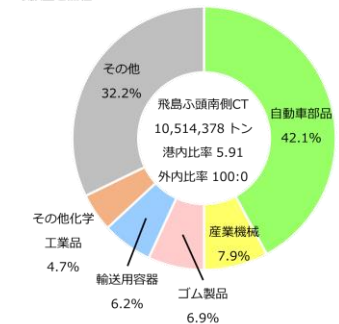
名称	飛島コンテナ埠頭株式会社（TCB）
出資会社	川崎汽船(株)、(株)商船三井、日本郵船(株)、旭運輸(株)、伊勢湾海運(株)、(株)上組、東海協和(株)、(株)フジトランスコーポレーション、名港海運(株)、飛島物流サービス(株)

エリア基本データ

ふ頭名称	飛島
旧名称	西4区
臨港地区面積	514.1ha
埋立完成時期	S45.8.19～H20.9.19
バース水深	10～16m

専用ターミナル（飛島ふ頭南側CT）

係留隻数 313隻
取扱量と品種



飛島ふ頭南側コンテナターミナル施設概要

	TS1 岸壁 耐震強化	TS2 岸壁 耐震強化
供用開始時期	平成 20 年 12 月	平成 17 年 12 月
総面積	361,549 m ²	
岸壁		
形式	横棧橋	
延長	750m	
水深	16m	
エプロン幅	57m	
コンテナヤード		
蔵置能力	4,963GS	
ガントリークレーン		
基数	6 基(免震)	
到達距離	22 列・6 段×6	
最大巻揚荷重	77.6t×6	
アウトリーチ	63.0m×6	
形式	ロープトロリー式モノボックス型	
トランスファークレーン：ラバータイヤ式ガントリークレーン（RTG）		
基数	25 基	
自動搬送台車（AGV）		
台数	31 台	

計画岸壁

TS3 岸壁 耐震強化	
延長	400m
形式	横棧橋
水深	16m

鍋田ふ頭



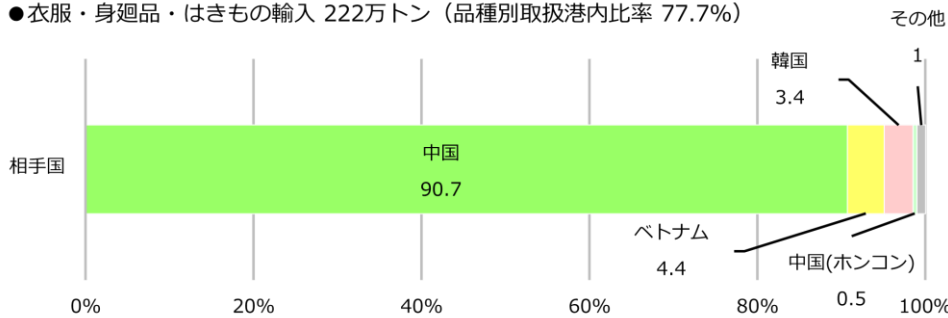
【港内位置図】

飛島ふ頭と並ぶ名古屋港の コンテナ物流拠点

中国・韓国からの輸入貨物が取扱の中心

鍋田ふ頭は、飛島ふ頭と並ぶコンテナ物流拠点で、3バースが供用しています。主に中国・韓国航路の船が寄港し、衣服・身廻品・はきものをはじめとする日用品の輸入を多く取扱っています。

●衣服・身廻品・はきもの輸入 222万トン（品種別取扱港内比率 77.7%）



また、平成 22 年以降は、年間のコンテナ取扱個数 100 万個（20 フィートコンテナ換算）を取り扱う国内有数のコンテナターミナルです。

平成 9 年供用の第 1 バース（T1）は財団法人名古屋港埠頭公社（現：名古屋港埠頭株）が整備し、平成 13 年供用の第 2 バース（T2）は、岸壁は国が、土地は港湾管理者が、背後施設は名古屋港埠頭公社が整備する、いわゆる“新方式”が採用され、どちらも港運 9 社の共同出資による名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社（NUCT）が運営しています。

平成 24 年 4 月に供用した第 3 バース（T3）は、国や港湾管理者が整備した岸壁と背後施設を一体的に貸し付ける“特定埠頭運営事業”を導入し、NUCT 社が運営事業の認定を受けたことから、第 1 と第 2 バースと合わせて、同社による 3 バース一体の効率的な運営が実現しました。

また、名古屋港初となる 1 度に 2 個のコンテナを運ぶことができるガントリークレーンなども NUCT 社が自ら整備し、効率化を図っています。

第 2 と第 3 バースの岸壁は、直下型地震にも耐えられる耐震強化岸壁として整備されているほか、RTG（ラバータイヤ式ガントリークレーン）の電動化など、災害時や環境にも配慮したターミナルとなっています。

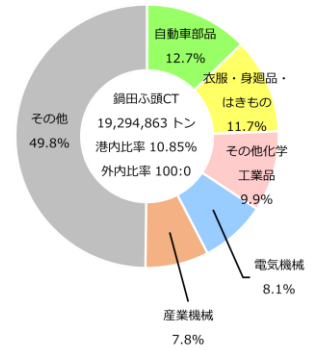
エリア基本データ

ふ頭名称	鍋田
旧名称	西 5 区
臨港地区面積	269.0ha
埋立完成時期	S60.1.22～H13.3.23
バース水深	12～14m

専用ターミナル（鍋田ふ頭CT）

係留隻数 2,217隻

取扱量と品種



T3 のガントリークレーン。20ft コンテナを 2 個つかむことができる ツインスプレッダーや免震装置を採用している。



架線から給電を受けるバスバー方式の RTG

また、令和元年度には「名古屋港鍋田ふ頭コンテナターミナル遠隔操作 RTG 導入事業」が採択され、令和 4 年 4 月から第 3 バースで運用が開始されています。

CT 運営者

名称	名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社 (NUCT)
出資会社	旭運輸(株)、伊勢湾海運(株)、(株)上組、東海協和(株)、日本通運(株)、(株)フジトランスコーポレーション、三井倉庫(株)、三菱倉庫(株)、名港海運(株)

鍋田ふ頭コンテナターミナル施設概要

	T1 岸壁	T2 岸壁 耐震強化	T3 岸壁 耐震強化
供用開始時期	平成 9 年 4 月	平成 13 年 4 月	平成 24 年 4 月
総面積	549,686 m ²		
岸壁			
延長	350m	350m	285m
水深	14m	14m	12m
コンテナヤード			
蔵置能力	6,768GS		
ガントリークレーン			
基数	3 基	3 基(耐震)	2 基(免震)
到達距離	17 列・6 段	18 列・6 段	17 列・6 段
最大巻揚荷重	57.9t	58.4t×2、58.6t	70.5t
アウトリーチ	48.5m×3	50.0m×3	48.5m×2
形式	ロープトオリ式橋型	ロープトオリ式橋型×2 セミロープトオリ式橋型	セミロープトオリ式橋型 ツインスプレッダー
トランスファークレーン：ラバータイヤ式ガントリークレーン (RTG)			
基数	38 基 (4 段積み：24 基(エンジン/給電) 5 段積み：14 基(電池/給電))		

広大なふ頭内には海に面したゴルフ場も

周囲はサイクリングロードとして整備

CT の西に広がるエリアには、平成 12 年にオープンした全 18 ホールの本格的ゴルフ場「名古屋港ゴルフ倶楽部 (富浜コース)」があります。ゴルフ場の周囲はサイクリングロードとして整備され、水と緑が融和したレクリエーションの場が提供されています。

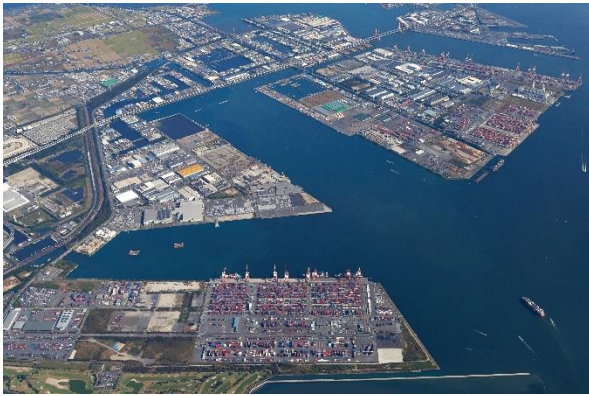
ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部

所在地：弥富市富浜 1-4

連絡先：0567-68-6651



コンテナって？



【港内位置図】

コンテナは輸送効率を飛躍的に高めた四角い箱

歴史は半世紀。名古屋港には昭和 43 年登場

もともと容器や箱などの入れ物を表すコンテナ。その登場は物流のスピードを飛躍的に高めました。今では街中でも普通に見かけられるほど現代社会になじむコンテナ輸送も、その歴史はおよそ半世紀、1956 年アメリカの海運会社シーランド社から始まりました。日本には昭和 42 年に、名古屋港には昭和 43 年に金城ふ頭にコンテナ船が初入港しました。

普及の理由は、統一規格の大型で堅牢な箱

コンテナ輸送普及の理由には、まずその効率性、機能が挙げられます。コンテナは、一定の規格で統一された大型で堅牢な箱です。登場当初こそまちまちだったその大きさも、今では ISO（国際標準化機構）などで規格が統一され、貨物を単一化して扱えるようになりました。船、トラック、鉄道などの異なる輸送交通手段の間もそのまま積み換えることができ、荷役時間は大幅に節約されました。

広く流通する 40 フィートコンテナで、長さ約 12m、幅約 2.4m、高さ約 2.6m、畳敷きで約 18 畳分。4 人家族が 4 トントラックで引越するなら、6~7 世帯分の荷物が入ってしまうといえます。鉄やアルミニウムなどの丈夫な金属製のため比較的簡単な包装でも輸送中の安全を確保でき、雨天の荷役と長期間の使い回しも可能となりました。

誰でも利用できる利便性も普及の鍵

利便性も普及の大きな要因です。国際海上コンテナ輸送では、アジア、欧州、北米を結ぶ基幹航路やその域内航路で定期航路網が張り巡らされ、各船社から週ごと、月ごとなどの日程表に基づく輸送サービスが提供されています。従来、海上輸送といえば専用船建造や船ごとのチャーターが当たり前であったところ、コンテナ輸送サービスは、大口荷主ではない誰もが海上輸送を利用できる環境を提供しました。

コンテナ輸送拡大のこれから

コンテナ輸送も当初は、それ自体が特殊だったため割高でさえありました。しかし、その効率性、利便性から急速に普及し、コストも低下。国際水平分業の進展で、製品や部品などコンテナ輸送に適した貨物も増大しています。さらなる効率性を求めたコンテナ船の大型化と、これに対応した港の整備も進み、サービス向上、コストの低廉化はますます加速されるといわれています。名古屋港でもコンテナ施設整備は最重点課題として取り組んでおり、さらに求められる、より使いやすい港づくりに努めています。



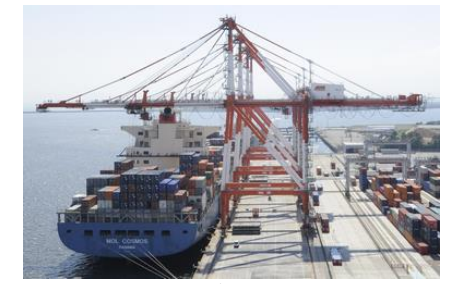
名古屋港初のフルコンテナ船「箱根丸」



40 フィートコンテナ



15,000TEU を超えるコンテナ船も就航



横 22 列対応のガントリークレーン



自働搬送台車
(AGV)

ラバータイヤ式
ガントリークレーン

木材港・弥富ふ頭



【港内位置図】

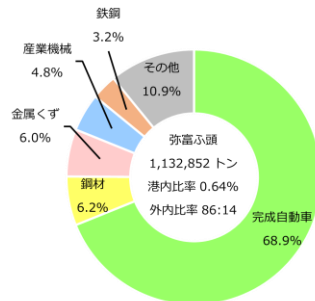
エリア基本データ

ふ頭名称	弥富
旧名称	西3区
臨港地区面積	283.9ha
埋立完成時期	S51.4.3~R7(予定)
バース水深	4.1~12m

公共岸壁（弥富ふ頭）

係留隻数 426隻

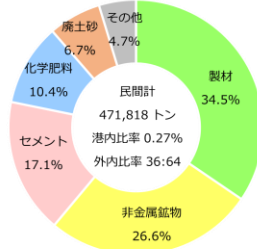
取扱量と品種



民間計（弥富ふ頭周辺）

係留隻数 357隻

取扱量と品種



木材港 / 伊勢湾台風の流木被害を教訓に整備

原木輸入減少傾向のなか一部貯木場は埋め立て再利用

名古屋の木材集積地としての歴史は古く、名古屋城築城時には木曽材を中心とした築城資材が、堀川などの水路を通じて盛んに運ばれました。

戦後になると名古屋における合板産業の発展に伴って輸入木材が急増する状況の中、昭和 34 年に伊勢湾台風が東海地方を襲い、港内に点在していた貯木場から木材が流出し、背後地に未曾有の被害をもたらしました。

この教訓を踏まえ、かつ木材輸入のさらなる増大に備えるため、昭和 43 年、内港部から離れた西部地区に広大な貯木場が広がる西部木材港が誕生しました。

現在、水面貯木場約 140 万㎡、陸上貯木場約 40 万㎡を有しますが、コンテナ化の進展などから原木取扱量は昭和 48 年をピークに減少傾向にあり、貯木場の利用率も低下しています。

一部の貯木場は埋め立てられ、倉庫や物流センターなどの港湾関連用地などとして利用され、現在も埋め立てや埋立地の分譲を進めています。

弥富ふ頭/西部臨海工業地帯の一角として発展

近年は公共岸壁からの完成自動車輸出も盛ん

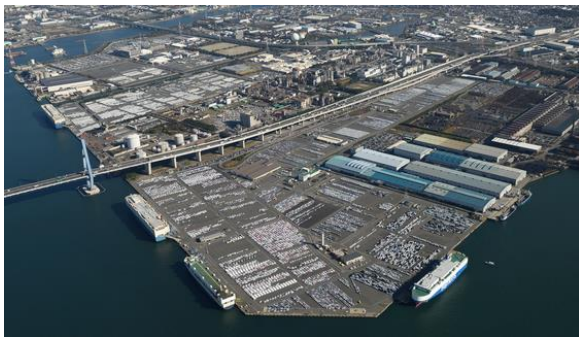
木材港に隣接する弥富ふ頭は、窯業原材料の流通センターや鋼材メーカー、航空機器製造工場などが立地しており、西部臨海工業地帯の一角として発展してきました。

現在、川崎重工業(株)名古屋第一工場では、米国ボーイング社の旅客機 B787 向けの製品の製造や組立が行われるなど航空宇宙産業の拠点となっています。

また、公共岸壁は、完成自動車の輸出拠点として利用されています。



新宝ふ頭



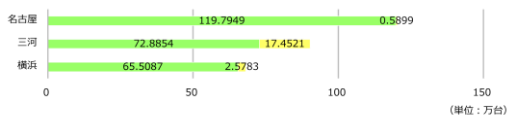
【港内位置図】

自動車輸出台数 世界トップクラス

名古屋港の背後には、我が国を代表する自動車産業が控え、その製品のほとんどが、名古屋港と三河港から積み出されています。自動車王国日本において、外国車輸入に対して、国産車輸出の規模はその10倍を軽く超えます。名古屋港は、この自動車輸出で日本一、世界でもトップクラスを誇り、日本経済を力強く支えています。

なお、自動車の輸出入合計でも令和4年財務省貿易統計によると、台数・金額とも名古屋港が日本一です。

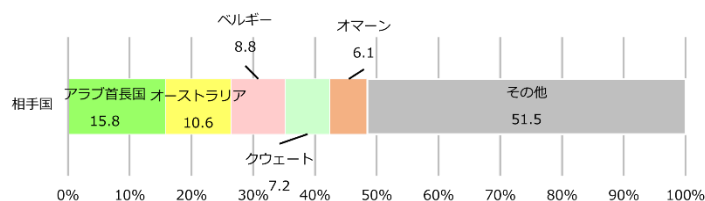
●令和4年自動車輸出台数（財務省貿易統計より）



●令和4年自動車輸出入金額（財務省貿易統計より）



●完成自動車輸出 1,367万トン（品別取扱港内比率 25.3%）



港内最大の自動車積出拠点

伊勢湾岸自動車道を挟む2つの積出基地から世界へ

完成車輸出の名古屋港での拠点となっているのが、新宝ふ頭にあるトヨタ自動車の積出基地です。伊勢湾岸自動車道を挟んで、南は名港センター、北は東海センターが立地。敷地内には、合計約37,000台を収容できるヤードや積出前のサービス工場、テストコースなどが備わっています。

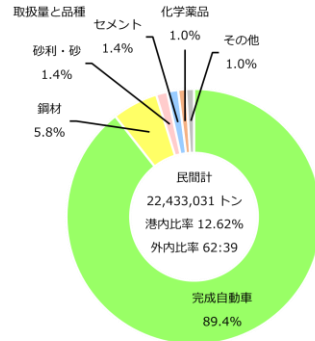
エリア基本データ

ふ頭名称	新宝
旧名称	南1区
臨港地区面積	359.4ha
埋立完成時期	S36.12.25~H5.10.13
バース水深	4~11m

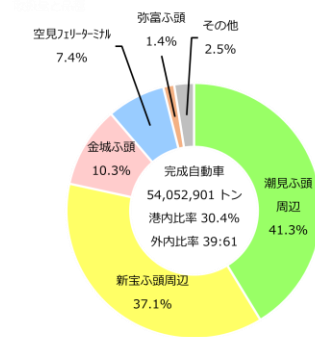
民間計（新宝ふ頭周辺）

係留隻数 3,355隻

取扱量と品種



完成自動車ふ頭別取扱内訳



港で働く「ギャング」たち



自動車専用船は、一度に約5,000台もの車を運ぶことができます。その自動車専用船への車の積み込みは、監督者1名、足車ドライバー1名、積込車ドライバー5名、船内車付役2名、車固定役6名からなる「ギャング」という組を編成して行います。ギャングの数は車の積み込み台数によって変わりますが、1ギャングが1日に積み込む台数は約500台。大型船では5ギャングが編成され、台数によっては2日かかりで積み込みが行われます。

東海元浜ふ頭・横須賀ふ頭



【港内位置図】

官民一体で鉄鋼一貫体制の製鉄所を誘致

所在地である東海市の面積のおよそ6分の1を占める港内最大のふ頭で、巨大な製鉄所が立地しています。

中部は戦前から京浜、阪神と並ぶ工業地帯の1つでしたが、戦後、東海地方には特殊鋼メーカーが多い反面、普通鋼材を供給する高炉メーカーがなく、製鉄業がその産業構造の弱点とも言われていました。

そこで官民が一体となって、鉄鋼一貫体制の製鉄所誘致活動が展開され、昭和33年、富士製鉄株式会社と愛知県、地元財界の共同出資による東海製鉄株式会社が誕生。地盤の堅いこの地に工場が建設されました。現在の工場の規模は、周囲約10km、東西約2km、南北約3kmに及びます。



以後、この製鉄所を軸に、鉄鋼、電力、石油、化学の複合コンビナートが名古屋港南部地域に形成されていきました。

東海製鉄株式会社は、その後、富士製鉄株式会社、八幡製鉄株式会社との合併により、新日本製鉄株式会社名古屋製鐵所が発足。さらに平成24年に住友金属工業株式会社と経営統合し、新日鐵住金株式会社となり、平成31年4月に日本製鉄株式会社に商号変更。

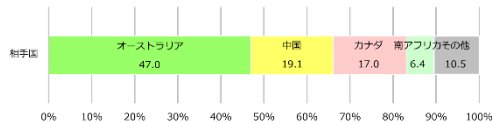
港内最大の鉄鉱石・石炭の原料基地

延長約1キロの原料岸壁に大型原料船2隻が接岸

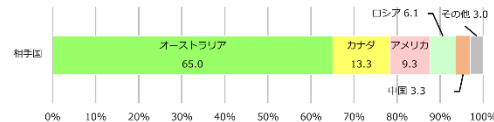
製鉄所には水深13~14m、総延長990mの原料岸壁と、1,323mの製品岸壁（外国貿易船用873m：水深10~12m、国内船用450m：水深4.5~7.5m）が備わっています。原料岸壁には、大型船が2隻同時に係留でき、大型アンローダーを使って最大約16.8万トン/日の鉄鉱石や石炭をおろすことができます。港内取扱の鉄鉱石と石炭のほとんどはここから輸入されています。製品岸壁からは、コイル、鋼管、鋼板などが大型クレーンにより積み出されています。

日本製鉄株式会社のほか、このふ頭内には大同特殊鋼株式会社が、また北対岸のふ頭には愛知製鋼株式会社などの特殊鋼メーカーが立地しています。

●鉄鉱石輸入 1,068万トン（品種別取扱港内比率 99.8%）



●石炭輸入 540万トン（品種別取扱港内比率 92.7%）

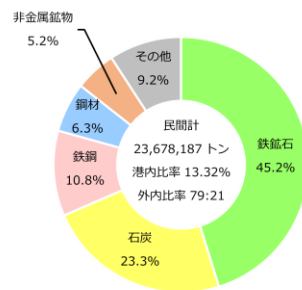


エリア基本データ

ふ頭名称	東海元浜	横須賀
旧名称	南2区	変わらず
臨港地区面積	741.9ha	8.1ha
理立完成時期		
東海元浜	S33.7.23~S50.12.22	
横須賀	S33.7.23~S61.12.25	
バース水深		
東海元浜	4.5~14m	
横須賀	4.5m	

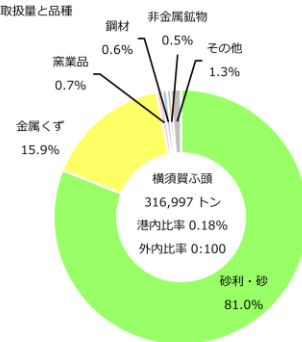
民間計（東海元浜ふ頭周辺）

係留隻数 3,742隻
取扱量と品種



公共岸壁（横須賀ふ頭）

係留隻数 642隻
取扱量と品種



横須賀ふ頭

伊勢湾シーバース



【港内位置図】

名古屋港の原油受入基地

戦後の高度経済成長期になると、中部圏でも石油エネルギー需要が大きくなり、これに対応するため名古屋港にも石油精製基地が建設されました。

それに伴い、大型タンカーの係留施設が必要になりましたが、石油精製基地の地先水面では水深が浅く、また防災上の観点からも問題があるため、沖合に大型タンカーを係留し原油を受け入れる施設「シーバース」を建設することになりました。

建設には十分な水深と船舶航行への影響を考慮して、名古屋港高潮防波堤から南約 10km の伊勢湾沖合が選ばれました。6 年の歳月と 150 億円の総工費を費やし、昭和 50 年に完成しました。

南北 500m の巨大な洋上基地

石油基地には埋設のパイプラインを通して

シーバースとは、大型タンカーが安全に停泊、荷役できるよう沖合の海上に設置された荷役施設です。沖合にあることで、荷おろし中の火災などの事故時に、臨海工業地帯や住宅地域にその影響を及ぼさないメリットもあります。

南北 500m の巨大な固定栈橋式洋上基地には、31 万重量トン級のタンカーが係留できます。原油は、海底下 3m~3.4m に埋設された長さ 9.3km の直径 1.3m のパイプラインを通じて、南浜ふ頭に立地している石油基地に送られます。

エリア基本データ

構造形式 固定栈橋式

大きさ

南北 500m 東西 80m

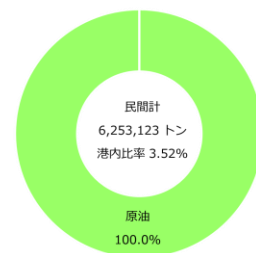
水深 26m

バース水深 25.5m

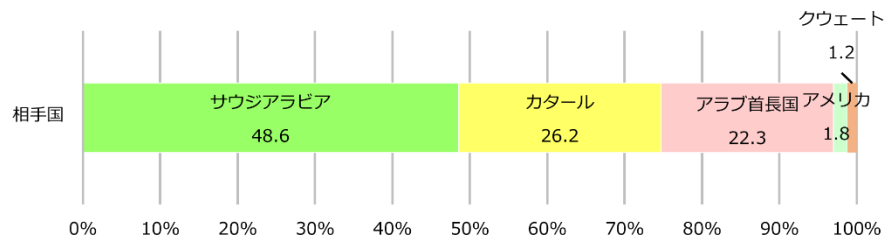
民間計（伊勢湾シーバース）

係留隻数 26隻

取扱量と品種



●原油輸入 625万トン（品種別取扱港内比率 100%）



北浜ふ頭



【港内位置図】

穀物基地

日本が重化学工業の原材料と並んで、その多くを輸入に頼る穀物。

北浜ふ頭に立地する穀物基地は、それを支える穀物輸入拠点の一つで、主にとうもろこし、デントコーン、麦などを取り扱っています。

●主な取扱穀物と輸入相手国

	R3 輸入量	主な相手国
とうもろこし	135 万トン	アメリカ、ブラジル、南アフリカ
麦	52 万トン	アメリカ、カナダ、オーストラリア

基地の面積は約 70 万㎡で、穀物船専用バースや穀物サイロが配置されています。大型のサイロになると 10 トントラック 100 台分に相当する量の穀物を保管することが可能です。

サイロの背後には食品関連工場や飼料工場が立地し、輸入穀物は、小麦粉、配合飼料、コーンスターチ、ぶどう糖、グレンウイスキーなどに製品化されています。

国際バルク戦略港湾に選定

名古屋港は、とうもろこしなどの穀物においても全国有数の取扱量を誇り、平成 23 年には、バルク（ばら積み）貨物の安定的かつ安価な輸送を実現するため「国際バルク戦略港湾」に「穀物」で国から選定されています。

石油基地

石油基地は北浜ふ頭と南浜ふ頭に

北浜ふ頭にある製造所では、主に石油化学製品の基礎原料であるパラキシレン、ベンゼン、シクロヘキサンなどを生産しています。また、南浜ふ頭にある製油所では、主に原油精製が行われ、LPG（液化石油ガス）、ナフサ、ガソリン、灯油、軽油、重油が生産されています。精製された各種燃料油は、大型タンクローリーや内航船によって国内各地のガソリンスタンドや二次基地である油槽所などに出荷されていきます。

●北浜ふ頭及び南浜ふ頭の石油基地

ふ頭名	名称
北浜ふ頭	出光興産株式会社 愛知事業所
南浜ふ頭	出光興産株式会社 愛知事業所

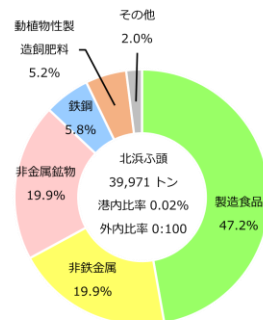
エリア基本データ

ふ頭名称	北浜
旧名称	南 3 区
臨港地区面積	427.9ha
理立完成時期	S46.9.13~H2.5.8
バース水深	4.5~12m

公共岸壁（北浜ふ頭）

保留隻数 61隻

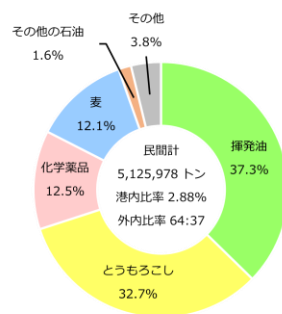
取扱量と品種



民間計（北浜ふ頭周辺）

保留隻数 1,875隻

取扱量と品種



南浜ふ頭



LNG（液化天然ガス）は船で運べる天然ガス

燃焼時の CO2 などの排出が少ないクリーンエネルギー

LNG とは、Liquefied Natural Gas（液化天然ガス）の略称。メタンを主成分にした天然ガスは世界的に広く埋蔵されています。

これをマイナス 162 度という低温で液化すると体積が 600 分の 1 になるため、大量に輸送・貯蔵することが可能になりました。

また、液化する過程で不純物が除去されるため、燃焼時にばいじんや硫黄酸化物を出さず、二酸化炭素排出量も他の化石燃料に比べて少ないクリーンエネルギーです。

港の最南端に並ぶ LNG 基地

周辺地域の発電用、都市ガス用として供給

港最南部に位置するこのエリアには、LNG の受入及び供給基地が立地し、地域の産業と暮らしを支えています。

基地の西には、大型 LNG 船専用の棧橋が 2 つあります。年間 130 隻程度が接岸し、港内最大の輸入品種である LNG のすべてがここに輸入されています。LNG は海水温を利用して再び気化された後、ガス導管を通して最長 16km 先にある港内の火力発電所に燃料用として送られるほか、都市ガスとして背後地域に供給されています。

ここから港内の海底を掘り抜き、対岸の三重県川越町の発電所と同県四日市市の都市ガス工場までを結ぶ「伊勢湾横断ガスパイプライン」が平成 25 年に完成しました。海底トンネルで敷設するガス導管としては国内最長級のトンネル部総延長約 17.3km の長さを誇ります。

●南浜ふ頭及び南 5 区の LNG 基地

ふ頭名	企業名	タンク
南浜ふ頭	知多 LNG 共同基地	7.5 万 kl 地上式×4 基
	知多エルエヌジー(株)	8 万 kl 地上式×6 基 16 万 kl 地下式×1 基
南 5 区	東邦ガス(株)	20 万 kl 地下式×2 基
		22 万 kl 地下式×1 基

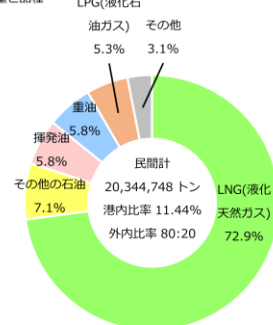
エリア基本データ

ふ頭名称	南浜
旧名称	南 4 区
臨港地区面積	294.5ha
理立完成時期	S48.3.12～S52.2.4
バース水深	6～14m

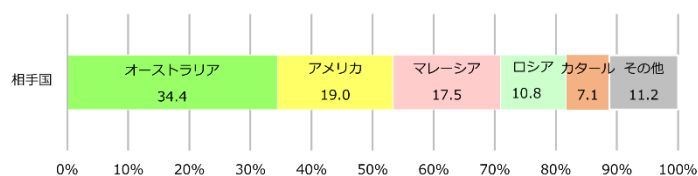
民間計（南浜ふ頭・南5区周辺）

保留隻数 1,777隻

取扱量と品種



●LNG輸入 1,483万トン（品種別取扱港内比率 100.0%）

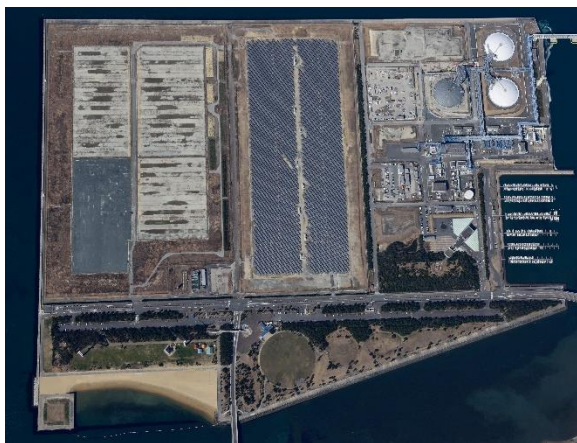


着栈中の LNG 船（モス型）



南 5 区の LNG タンク

南5区



“環境アイランド”として育つ南5区

人工海浜「ブルーサンビーチ」では野生のウミガメが産卵

平成9年4月にオープンした名古屋港最南端の人工島、南5区に整備された新舞子マリナーパークは、長さ400mの人工海浜「ブルーサンビーチ」を始め、スポーツ広場、ピクニック広場などを備えた公園施設です。新舞子マリナーパークは、昔から名古屋市近くの海水浴場として親しまれてきた知多市新舞子海岸の対岸に位置し、海水浴に止まらず、ウインドサーフィンなど多様なマリナーレジャーが楽しめるエリアに発展しています。

夏場には多くの海水浴客で賑わう人工海浜では、平成14年6月には、野生のアカウミガメの産卵も確認されました。その後、卵は名古屋港水族館でふ化し、子ガメは元のビーチから放流されました。

また、平成27年1月には、南5区の南端に「新舞子マリナーパーク魚釣り施設」の供用を開始しました。

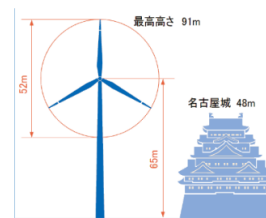


港の新たなランドマークとして風力発電施設も稼働

人工海浜間近にそびえる高さ91mの風車は、環境に配慮した港づくりの一環として、平成17年2月に稼働した風力発電施設です。発電された電力は新舞子マリナーパークで使用するほか、余剰電力を電力会社に売電しています。

プレジャーボート用の係留施設「新舞子ボートパーク」が島の北側に整備されているほか、中央部では、大規模太陽光発電設備「ソーラーパーク新舞子」が整備されました。

商業港、工業港の面に注目が集まりがちな名古屋港にあって、南5区はこれと対照的な“環境アイランド”としての成長を遂げようとしています。



エリア基本データ

ふ頭名称	南5区
旧名称	変わらず
臨港地区面積	76.2ha
埋立完成時期	H6.3.23~H22.3.23
バース水深	—

新舞子マリナーパーク魚釣り施設

規模：740m
 供用時間：午前5時15分～午後8時
 施設：転落防止柵、浮き輪、昇降タラップ、防犯カメラ、放送設備、照明設備



新舞子ボートパーク

面積 陸域 約15,000㎡
 水域 約48,000㎡
 (甲区画)
 収容艇の長さ / 隻数
 7.5m超~10m程度 / 10隻
 (乙区画)
 7.5m以下 / 400隻
 駐車場 148台

